

Ⅲ 2017（平成 29）年度 「FD 研修会」実施報告

1. 実施概要

2017（平成 29）年度は FD 研修会として 2 つの研修会を実施した。専任教員は、希望する 1 つ以上の研修会に参加した。今年度の研修会の実施概要は以下のとおりである。

1. 内容・テーマ：「＜言語化実践＞と＜振り返り＞が受講生の成長を促す授業 — 低単位・低意欲層に向けたキャリア教育プログラム—」

日時：2017（平成 29）年 6 月 22 日（木） 16：50～18：00

場所：ユージニア館 3 階 アクティブラーニングスペース

講師：京都産業大学 文化学部 鬼塚 哲郎教授

コーディネーター：人間文化学科 中里 郁子講師

参加者：42 名（教員 35 名 職員 7 名）

概要：京都産業大学 文化学部 鬼塚 哲郎教授をお招きし、京都産業大学で鬼塚先生が中心となり低単位・低意欲の状況にある学生を対象に開講されている科目「キャリア・Re-デザイン」についてご講演いただいた。授業の内容が具体的に紹介され、学生がこの授業での自己開示、対話、他者からの応答を受けた振り返りをとおして、主体的に思考し行動する様子が述べられた。

講師による、「講演概要」は、次のとおり。「もともと低単位・低意欲の学生層に向けたキャリア科目としてデザインされた『キャリア・Re-デザイン』は、12 年間の実践のなかで大きく変化し、キャリア教育の枠組みを越え、教養教育のひとつの典型を示すものとなりつつある。ここでの「典型」とは、1) 教員からの刺激に対し受講生が応答する、その応答を授業運営者がファシリテータとして支援する、そのような授業として成り立っていること、2) 複数の専門家が教員団を構成しており、授業運営をめぐって議論する場を持つことにより、教員も学ぶ存在であることを再確認すること、の 2 つの意味を持つ。」

2. テーマ：「いのちを輝かす教育」

日時：2017（平成 29）年 7 月 7 日（金） 16：50～18：00

場所：ユージニア館 3 階 アクティブラーニングスペース

講師：眞田 雅子 学長

コーディネーター：福祉生活デザイン学科 藤原 智子教授

参加者：41 名（教員 33 名、職員 6 名、法人より 2 名）

概要：眞田雅子学長が講師として、自身が受けてきた教育、教育者としてのキャリア、本学の建学の精神とミッションコミットメント、担当科目「英語総合 I」での試みなどについて述べられた。参加した教職員は、学長の教育についての考えや熱意を共有することができた。

講師による、「講演概要」は、次のとおり。「私立学校の存在理由は、その建学の精神にあると言われている。京都ノートルダム女子大学の建学の精神は何かと問われれば、Faculty も Staff も一様に『徳と知』と答えるに違いない。ただ、その内容が、

今、この大学で、構成員の一人一人によって実現されているのかという問いには、ストレートな回答は困難である。『わたしたちの決意』として示された『ミッション・コミットメント』が、私たちの日常を表す言葉になる時、厳しい現実を、希望へと導くことを、具体例を挙げながら示したい。」

参加者数

	日程	学長 副学長	人間文化学部		現代人間学部			生活福祉文化学部	徳と知教育センター	職員他	計
			英語英文学科	人間文化学科	福祉生活デザイン学科	心理学科	子ども教育学科				
1	6月22日(木)	2	5	4	3	11	9	1	0	7	42
2	7月7日(金)	2	6	6	8	4	5	1	1	8	41
	参加者数(延べ)合計	4	11	10	11	15	14	2	1	15	83

(在籍教員数(専任、特任、嘱託) : 71)

2. 現状と今後の課題

(1) 低単位・低意欲層に向けた教養教育プログラム

今年度 FD 研修会の第一回は京都産業大学文化学部の鬼塚 哲郎教授をお迎えして、「<言語化実践>と<振り返り>が受講生の成長を促す授業 ―低単位・低意欲層に向けたキャリア教育プログラム―」というタイトルでご講演いただいた。42名の参加者があり、38.2%が「大変有意義であった」、47.1%が「有意義であった」と解答しており、満足度の高い研修会となった。

「キャリア・Re-デザイン」という科目は、複数の教員が意欲を失っている学生に積極的にかわり、能力の育成にフォーカスせずに、相互交流と対話によって学生の主体性を引き出すための教養教育プログラムとなっていること学び、大変刺激を与えられる内容のご講演であった。本学においても、自信がなく低単位や低意欲に陥っている学生をどのように指導するかという共通の課題があり、小規模な女子大学である本学において具体的に可能なプログラムを考えることが必要である。

(2) 建学の精神を具体化する教育

第二回の FD 研修会は、眞田雅子本学学長を講師として、「いのちを輝かす教育」というタイトルのもと実施された。本学の建学の精神を具体化し、学生が生き生きと学ぶ教育の実現に向けて、学長自身の体験と現在の授業をもとにお話いただいた。41名の参加者があり、39%が「大変有意義であった」、32%が「有意義であった」と解答しており、比較的満足度の高い研修会となった。

「人材よりも人物」を大切に育てる教育について取り上げられ、教員も学生と同じ地平に立って学ぶ存在であり、対等な人間として対話しつつ学生に向き合うことの重要性が強調された。

建学の精神に立ち返り、それを具体的な言葉「尊ぶ・対話する・共感する・行動する」として表現している「ミッションコミットメント」を日々の教育の中に現実化することの重要性を再認識する研修となった。私立大学としての本学の存在意義は、建学の精神を現在の教育の中にいかに生かして人

物を育てる教育を行うことができるかにあり、その精神を教職員が共有して日々の教育を行うための実践方法の探求がさらに必要である。

今年度の二つの FD 研修会を振り返り、教員が学生と対話しつつ教育活動を実践することが重要であることが再確認された。対話を重んじる教育が学生を意欲的にして、目的に向かって行動してゆける人物を育てることができるという認識が深まった。今後、これらの研修で得たことを、本学にふさわしい形態でどのように現実化するかということを中心に模索し、実践してゆくことが課題である。今後、今年度の FD 研修会での学びが日々の教育の向上に生かされてゆくことを期待したい。

文責： 中里 郁子（人間文化学部 人間文化学科 FD 委員）